

平成30年度 第3回 北海道稚内養護学校 学校評議員会の概要

2月27日（水）に今年度の第3回学校評議員会を開催しました。その概要についてお知らせします。

今回のテーマ「一年間の教育活動について」

1 【説明】一年間の教育活動を振り返って

- ・各学部の教育を振り返って～地域と連携した教育活動～
- ・高等部卒業生の進路等について
- ・平成30年度学校評価の結果について
- ・コミュニティ・スクールについて



大谷高校マラソン交流



委託作業：砂詰めペットボトル

2 【説明】平成30年度学校評価について

○ 稚内養護学校の学校評価

全項目の平均点

学校職員 3. 3、保護者 3. 6

□ 高い評価の項目

- ・児童生徒個人情報管理徹底（学校職員） 3. 8
- ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の十分な説明（保護者） 3. 8

■ 低い評価の項目

- ・各学部や分掌、棟、事務部の情報共有や連携や組織的、効率的な業務（学校職員） 2. 8
- ・学校と地域の関係団体等との連携・協力（保護者） 3. 1
- ・本校のPTA行事の内容や方法（保護者） 3. 3

2 評 議

○ 良い点 ■ 改善点

○ 近隣の声問小学校、増幌小中学校と交流及び共同学習を行っていることはよい取組。声問小学校児童は稚内養護学校と日常的に交流することにより、障がいのある方への理解が進んでいる。養護学校はもっと大きな規模で交流を進めて、もっともっと広めていけたら良い。

○ 卒後の進路の説明を聞き、福祉事業所へ就労する卒業生が多い傾向を知ることができた。障がいのある方へのハローワーク等での募集があることを知り、一人一人の実態に応じた就労支援、生活介護ができる体制づくりが大事だと考える。

○ 評議員として、また、授業研究の助言者として稚内養護学校に来校する機会を多くいただいた1年だった。「稚内養護学校で働く教職員を見て、もっと自信をもって活動されたら良い。謙虚すぎる面が強いとも思える。十分な活躍、教育をされている。」との感想をもった。

○ 地域住民は、高齢者が多い傾向にあり、ホームページ閲覧は難しい状況がある。また、町内会の回覧は見ないで回覧することも多いと予想される。学校だよりの全戸配布は良いと考える。

○ コミュニティ・スクールについては、町内会をはじめ、地域住民の協力が必要であるとともに、これまでの取組とこれからの違いを学校と委員の皆さんと一緒に考え進めていくことが大事である。手探りで進めていくことも多くなるが、多方面へ発信できる場になると良いと考える。

■ 平成30年度学校評価の結果について、評価点が低い項目において、教職員の意見を踏まえながら進めていくと良い。

■ 情報共有は取り扱いに十分に気を付けた方が良い。共有の度合いがそれぞれ異なる。共有しているようでしていない。伝わっていきそうで伝わっていないことが多い。双方向の理解を進めて取り組むことが大切である。

■ 牛乳パック回収の取組は特定の人しか知らない。おそらく、回収協力を受けている家庭のみだと考える。うどん打ち交流会に参加した人の中でも養護学校に初めて来た人が多くいた。今後、町内の住民が学校と関わる機会を増やす取組が必要であると考えます。



次年度に向けて（校長から）

次年度、コミュニティ・スクール設置を予定していることから、地域との連携・協力がさらに重要になってくる。地域とともにある学校として、子どもたちの教育活動のさらなる充実を図るため、いただいたご意見を真摯に受け止め、これからの学校づくりに生かしていきたい。